

## 認知症の周辺症状－その③

### 怒りっぽい、暴言、暴力

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



#### 前頭葉の委縮で起る 人格変化の症状

「怒りっぽくなった」「暴言を吐く」「暴力をふるう」これも認知症の患者さんによく見られます。これは主に前頭葉の萎縮による症状です。

前頭葉は人間が他の動物と比べて最も発達した部位であり、人格に関わるとともに人間の社会的行動、感情をコントロールする役割があります。お酒に酔っ払うと暴言を吐いたり、暴れたり、あるいは陽気になったり、泣き上戸になったりします。これは、アルコールにより前頭葉の働きが麻痺して感情のコントロール

ルができなくなった状態です。

アルツハイマー型認知症では側頭葉の萎縮が最初に来るため記憶障害がまずあらわれ、その後、前頭葉の萎縮が来るためこのような症状は病状が進行してから起ります。一方、前頭葉側頭葉型認知症は前頭葉が早く、急速に萎縮するため、記憶障害よりも人格変化が早く起り、発症早期から怒りっぽくなります。

#### 落ち着いて否定せず 肯定的に対応を

怒りの原因を調べると、①周囲の状況が理解できず混乱している②周囲の

人との関係性もつれる③体調不良が怒りにすり替わっている、などがありません。では、どのように対処すれば良いでしょうか。

まず、してはいけないことは、怒っている人を叱ることです。暴言を吐かれればつい反論し叱ってしまいがちになります。怒っている本人も怒っている理由が分かっている、忘れてしまっています。

また、怒りの原因である妄想や勘違いは訂正が不可能です。叱ると叱られたことはわかって、なぜ叱られたかは理解できないため、より感情的になってしまいます。興

奮しているときはその場を離れ、様子を見るのが無難です。落ち着いてくれば声をかけて話を聞いて、否定せずに肯定的に対応しましょう。

しかし、暴言・暴力が頻回になれば医師に相談し、薬物療法を加えることも必要になります。介護者がギブアップ状態になる前に、早めに一度相談し、経過を見ながら必要時に薬物を追加するのが良いと思います。

認知症の患者への対応は長く、根気のいる、正解のないものです。介護者が疲弊しないように助け合っていきましょう。

